ベトナム旅行記（その他のベトナム編）

苧坂達文

ホイアンとフエはベトナムの中部。いずれもダナン空港から車で移動した。
ホイアンはかって港町として繁栄を誇った町。狭い区域内に見どころ満載だった。また福建省や広東省からの移住者も多かった為、中国人が建てた集会所や寺、住居等もありまた日本人が建てた屋根付きの来遠橋。橋の中央に小さな寺があるユニークな橋だ。川沿いには市場があり中に住民が朝食する大きな食堂スペースがあって、そこで名物のカオラウを食べた。汁っけがなくフォーよりもうどんに近い麺だった。
早朝、海岸リゾートを見に行った時、乗ったタクシーでたまたま日本語を話せる運転手に出会いガイドを兼ねて案内してもらえるというのでミーソン遺跡へ行った。
ミーソン遺跡はチャンパ王国（192 年～1832 年）時代の聖地であり世界遺産となっている。平らな石を積み上げて作った建築物は一見に値する。またベトナム戦争で多くの建築物が爆撃された大きな穴がそのまま残っていた。遺跡内の劇場で当時の民族舞踊も見ることができる。

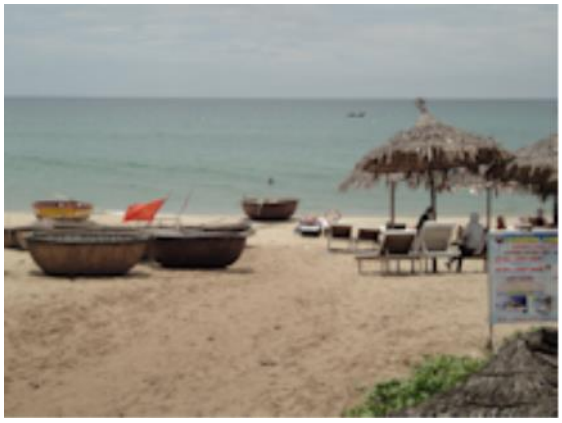
市場に並んだ海産物

日本人が建設した来遠橋

名物のカオラウ

劇場の民族舞踊

ミーソン遺跡　平たい石積の建物



リゾート海岸　近所の人は出勤・登校前にひと泳ぎするらしい。水着はなく服のままだった。

ホイアン名物のラタンの店

トゥボン川周辺の夜市の橋にかかる入り口

住宅地にある日本庭園風の隠れ家レストラン。天井には懐かしい扇風機。ここでカンボジアに小学校を作る為に寄付金を募る河口湖の団体へリイテージの女性たちと店内のみの合コン。寄付金をカンボジアに届けた帰りにホイアンに立ち寄ったそうだ。翌年カンボジアへ行ってこの事業の価値を少し理解できた。

フエはハノイの後回ってきたので、一泊しただけ。メインのグエン朝王宮遺跡とマイクロバスでティンムー寺、トウドゥック帝陵、ホンチェン祠堂、カイディエン帝陵、パオクオック寺、ドンカイン帝陵、ティウチ帝陵、ミンマン帝陵といった寺院や墓陵を駆け足で見て回った。
宮殿内や寺院の各所に漢字がつかわれている。中国文化の影響だろうか。また旧正月ということで境内では子供から青年までの練武が披露されていた。

宮廷料理を再現する店でディナーをしたがそのメニューのユニークさに驚かされた。竜に亀に鳥。料理というよりまるで工作だ。

ランチは以前ホイアンで住民の入る食堂で食べたことに味を占めフエでも地元の食堂に入ったところちょっと不潔な感じだったがかまわず、名物のブンボーフエ(うどんのような太いフォーだが具の

豚肉のブツ切り）が少し不気味で食欲をそそらなかったのであさりの雑炊を食べたら食あたりして大変だった。やはり食事は地元の人とは一線を画くすべきだと思った。

ハロン湾はハノイから車で 2 時間程度。近郊のリゾートホテルで一泊してハロン湾クルーズを楽しんだ。ここはリゾートホテルが集まる地区で住宅地からは切り離されている。クルーズでは湾内の景色を楽しんだ後離れ小島の洞窟を見物した。航行中は様々な小舟が近寄ってきてフルーツや宝石類を売りに来る。女性たちは質が良くて安いからと言ってみな真珠を買っていた。騙されているのではと注意したら、「日本人はあてにされてるのだから目くじらたてずに騙されてあげれば良いのよ」だそうだ。開発途上国での日本人の在り方を学んだ気がした。

洞窟内はカラフルな照明で彩られている。

クルーズ船に近づいてくる船上商人。

ハロン湾クルーズ船とその景色

遊覧船

洞窟のある島

最後にベトナムはフランス領だったことから、その味が伝承されておりベトナムのフランス料理はおすすめだがベトナム産のワインは評価できない。外国産を選んだ方が良い。　【おわり】